
兵庫県千種川水系における淡水ガメ相

松井博夢・小森敦介・亀崎直樹

700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学動物自然史研究室

The distribution of freshwater turtle on the Chikusa River, Hyogo prefecture.

By Hiromu MATSUI, Taisuke KOMORI and Naoki KAMEZAKI

Okayama University of Science, 1-1 Ridai-chou, Kita-ku, Okayama 700-005, Japan

千種川は兵庫県西部に流れる二級河川である。しかしながら、全長72kmの比較的規模の大きい河川である。ここの淡水ガメ相は全く調べられていない。兵庫県は明石市を中心に淡水ガメ相は明らかになりつつあるが、ミシシippアカミミガメとクサガメが多く、また、ニホンイシガメは県の西部に見られるだけである。そこで今回は千種川の河口から源流に近いところとその付近のため池にカメ罟をかけて、捕獲されるカメの種を同定し、甲長などのサイズを計測した。その結果、クサガメが215個体が捕獲され、優占種であることが明らかになった。また、在来種のニホンイシガメは次に多く33個体が捕獲された。このことよ

り、本河川にはニホンイシガメがまだ多数生息しているが、大陸からの外来種と考えられるようになったクサガメが増殖し、それを追いやる傾向が見て取れた。また、近年全国的な増加が指摘されるミシシippアカミミガメは21個体捕獲された。しかし、本種の数はまだ少なく、全体の7.7%であった。これから、ミシシippアカミミガメはまだ侵入してまもなく、これから増殖することが危惧された。また、ニホンスッポンは3個体捕獲された。このように千種川はある意味日本のミシシippアカミミガメも侵入していない古い時代のカメ相を呈しているものの、クサガメはどんどん増殖し、さらにミシシippアカミミガメも最近侵入し増えている様子が明らかになった。